中島教室
鹿の子・
砂のち
高いの

どう生きるか考えて

緩和ケア看護師が講演

高砂市立鹿島中学校で4日、生きることの尊さや命の重さについて考える「いのちの教室」があり、高砂市民病院（同市荒井町紙町）でがん患者の緩和ケアに取り組んでいる看護師橋本みさ子さんが講演した。

同校は年2回、外部から講師を招いて「いのちの教室」を開いており、今回は1、2年生約260人が参加した。

橋本さんは、多くのがん患者と接してきた体験を語り、医師らと協力して患者の大切な時間を支える緩和ケアの重要性を強調。もし周りに重い病気にかかった人がいたら「寄り添う気持ちを持って、普段通りの接し方をしてほしい」と語った。

心臓病で幼い男の子を亡くした母親の話も紹介し、母親が書いた手紙を橋本さんが代読。かけがえのない存在を失った苦しみがつづられる一方で「母親として恥じない人生を全うしなければ」との決意が記されており、生徒たちは真剣な表情で聞き入った。

「その男の子は亡くなってからも、母親の心の中で生き続けている。命はつながっていく」と橋本さん。最後に「毎日の生活は当たり前にあるものではない。誰でもいつか死が訪れることを心に留めて、今をどう生きるか考えよう」と呼びかけた。

（三浦拓也）

命の大切さを中学生に語る橋本みさ子さん＝高砂市阿弥陀町阿弥陀